

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



当院における研修・教育について

中部労災病院副院長 加藤 文彦

医療(医学)の3本柱と呼ばれているものがあります。みなさん何かご存じでしょうか?それは臨床(診療)、研究、教育です。名古屋大学医学部付属病院の玄関にも「研究と教育を目的として臨床を行っていることをご理解下さい」という内容の看板が立っています。病院のホームページなどにも記載していますが、私は「医学は不完全な科学である」と思っています。もし完全なものになったら、「不老不死」が達成されますが、現実はその行きません。しかしながら、医学は絶えず進歩しています。これはまさに研究と教育のたまものです。研究の重要性については又の機会に述べさせていただくこととして、今回は教育の話をしていただきます。

当院は以前から厚生労働省の臨床研修指定病院です。また、多くの学会の研修指定病院であり、その中には貴重なものもあります。よって、数多くの学会認定専門医や指導医を有しています。その一方で、それらの専門医の資格を取るために研修している若い医師も数多くいます。医学生の病院実習受け入れ件数も東海地方のトップクラスです。また、医師以外の医療スタッフの研修施設でもあり、

数多くの看護学生や薬学部学生、医療技術学校の学生が実習や研修に訪れます。これらのことは私たち中部労災病院の責務でもあり、大いなる誇りでもあります。

「見習い中の人の治療を受けるなんて」と抵抗を感じられる方もお見えになると思いますが、そのような方はよく考えてみてください。あなたは生まれた時から「おとな」でしたか?家庭や学校、社会で学ぶことなく「おとな」になりましたか?そんなことはないはずで、世の中で生きていくためには、すべて「学習」がついて回ります。医療だけが特別で「学習抜き」とはなりません。

当然のことながら、医療の教育でも、家庭での親や学校の教師のように指導者がついて教えます。決して研修生や学生だけで判断したり、処置するわけではありませんので、その点をご安心下さい。ここで重要なことは、あなたの病気や怪我で学ばせていただいた研修生や学生が明日の医療を支えていくということです。中部労災病院のみならず、日本や世界の医療レベル向上のために、医学教育にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今月号のお知らせ

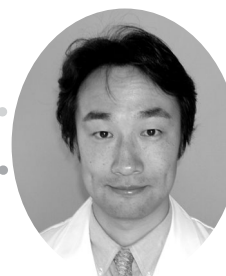
- ①当院における研修・教育について
..... 加藤副院長
- ②医師のページ
眼科から、患者さんへのメッセージ
..... 鈴木部長

- ③看護師のページ
冬將軍到来に向けて!! インフルエンザ情報
- ④眼精疲労について
菌名割り出し
- ⑤患者さまの声
- ⑥ボランティアのページ

医師

眼科から、
患者さんへのメッセージ

眼科部長 鈴木 聡



お年をとられてくると眼にもいろいろな病気がおこってきます。現在、日本の失明原因の一位は糖尿病網膜症です。これは内科的疾患である糖尿病からくるものなので、糖尿病で内科にかかっておられる方は内科医の先生から定期的眼科受診を勧められているものと思います。

また失明まではいかなくとも、白内障は視力低下を患者さん自身が訴えられ眼科を受診されます。白内障は手術により治すことのできる病気です。

その他に自覚症状が末期まで無く、失明までいたる病気として緑内障があります。緑内障とはさまざまな理由で眼圧が高くなるために、眼球の中の視神経(見たものを脳に伝える神経)が圧迫されて徐々に弱っていき、視野(ものの見える範囲)が狭くなっていく病気です。

日本緑内障学会の最近の報告では緑内障の有病率(病気になる確率)は5.8%(約17人に1人)で、年代別では40代の

2.3%(約45人に1人)から、70代以上の13.1%(約8人に1人)へと、年齢につれて急増するそうです。緑内障は急に進行することは少ないため、末期になるまで自覚症状がほとんどなく、自分が病気であることに気づきにくいのが特徴です。早期に発見して早期に治療を開始するためにも、定期的に眼科を受診して、緑内障の検査を受けることをお勧めします。



★「フィリア・レター」は、中部労災病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



冬将軍到来に向けて!! インフルエンザ情報

台風の当たり年となった夏も過ぎ、めっきり涼しくなってきました。

朝夕の気温の低さと、日中の暑さに体調管理の難しさを感じている方が多いのではないのでしょうか?さて「冬」といえば大敵の「インフルエンザ」が押し寄せてきます。

昨年度も「予防」や「かかってしまったら…」などお知らせしてきましたが、今回は「インフルエンザの型」についてお伝えいたします。

今年はどうな型が流行るのかな?

インフルエンザには「A型香港型」「B型」などのいろいろな型があります。最近流行しているのは前述の「A型香港型」「A型ソ連型」「B型」の3種類です。それらの型が毎年少しずつ変化(小変異といいます)しながら数年から数10年単位で流行が続きます。しかし突然まったく違うウィルスが現れる(大変異といいます)ことがあります。この大変異によって出現したものが、「新型インフルエンザ」と呼ばれ、予防接種では効果が期待できず、大流行となるのです。

予防接種の種類は、毎年厚生労働省から依頼された「国立感染症研究所」が、世界各地で採取されたウィルスの分析をもとに流行予測を行い、決定されます。

予防接種について!

今年度の予防接種の準備が整いました。各科外来で、予約を受け付けます。(ワクチンの在庫がなくなり次第、予約受付は終了します。)

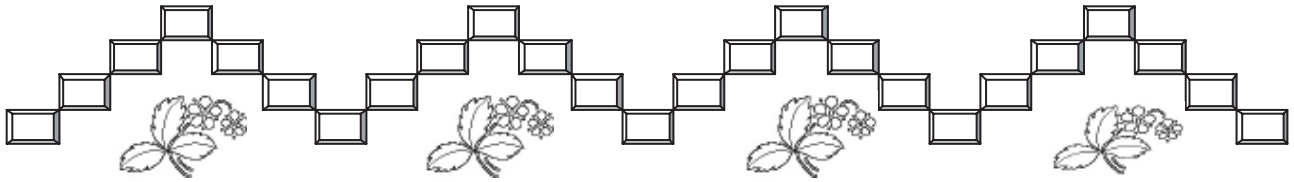
インフルエンザのピークは1~2月のためピーク前の12月中旬までには接種を済ませるのが効果的です。特に65歳以上の高齢者や小児は早めに予防接種を受けていただくことをお勧めします。

予防接種を打ってもインフルエンザにかかることはありますが、比較的症状が軽くすみます。又、副作用もゼロではありませんので、接種に関しては主治医にご相談下さい。

日常生活では外出後の「うがい」「手洗い」「洗顔」が効果的です。十分な睡眠や休養・バランスの取れた食事、インフルエンザに打ち勝つ体力を保ちましょう。



★中部労災病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。



医療スタッフのページ

～眼精疲労について～

眼科 視能訓練士

眼精疲労(眼の疲れ)をおこす原因として眼鏡の不適合、斜位(潜伏性の眼位ずれ)、病気(眼あるいは全身)、ストレスなどがあげられますが、それぞれ原因を究明して治療することでかなり症状は軽減されます。

中でも斜位による眼精疲労は気がつきにくいいため注意が必要です。特にお酒を飲んだ時や疲れた時などに物が2つにだぶって見えるような場合は斜位の程度が大きい可能性があるので一度眼科受診をおすすめします。当院眼科にはこういった眼位ずれ(斜視や斜位)を専門とする視能訓練士が2名いますのでお気軽に御相談下さい。



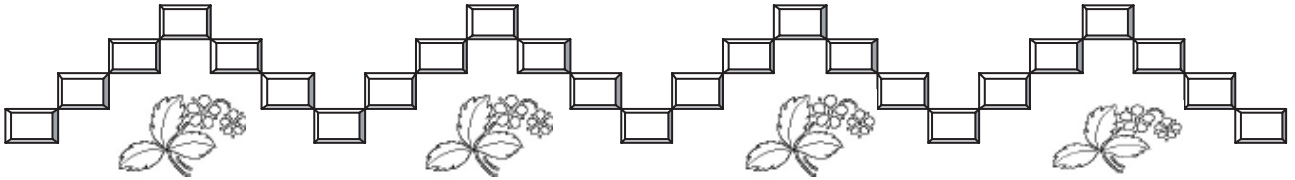
菌名割り出し

検査科

皆様を苦しめた細菌達は、どのようにして検査されているか、ご存知でしょうか。

細菌に美味しい物を与え、更に、最適な環境を作ってやり、無数の仲間を増やしてその細菌達の特徴を調べることによって、細菌の名前を割り出しています。尿、痰、膿など検査材料を培地に増えた細菌の特徴は、コロニーの形や、色、匂い、溶血反応等やいろいろな化学的な反応を用いて調べられます。増殖・同一菌分離・増殖の過程を経て菌名を割り出しています。その後、どの薬が効きやすいかを調べたりもします。もちろん、検査が終われば、すべて滅菌されますのでご安心ください。細菌達に苦しめられないように、普段から体調を整え、体を清潔に保つよう心がけることが第一です。





患者さまの声

患者さまから頂いたご意見・ご要望とそれに関する病院の回答については玄関ロビーにも掲示しています。

Q

会計窓口が非常に混んでいる午前中に、一人しか対応をしていない時がある。

A

会計をお待たせいたしまして、申し訳ありませんでした。

午前中は会計窓口係を2～3名配置していますが、患者さんからの問い合わせや返金処理等のため、一時的に1名になってしまうことがあります。今後は席を空ける時間が長くなる場合には、必ず代わりの者が対応するよう徹底し、引き続き会計の迅速処理に努めていきたいと思っております。

Q

院外処方も選択することができるが、小児科の薬は病院でいただきたいと思いましたが、あまりにも待ち時間が長すぎる。

A

薬をお渡しするまで、大変長い時間をお待たせいたしまして、申し訳ありませんでした。原因といたしましては、患者さんの前に数種類の散薬を混合する人がみえたか、薬剤師が他の業務にとられたかが考えられます。今後は、遅れている方は説明を十分にするようにし患者さんに快く通院していただけるよう努力しますので、よろしくお願いたします。

Q

入院の子供の食事に関してですが、せめて1食だけでも目で見て、喜び、楽しんで食べることができるものを出してほしいです。また、器についてもかわいらしいものにしてほしいです。

A

現在、幼児食は消化のよいもの、蛋白質・鉄・カルシウムの不足にならないよう心掛けています。ご指摘のとおり子供さんの喜ぶ食事という点では、配慮がたりなかったと思います。これからは、子供さんに喜ばれる食事を作って行きたいと思っております。

食器に関しましては、安全性を重視し高温消毒に耐え得る素材のものを選択しておりますので、どうぞご理解いただけますようお願いいたします。



中部労災病院ボランティア「四葉のクローバーの会」では、絵手紙教室を開いています。講師には、各地で絵手紙教室を開催されている近藤先生を迎え、毎回楽しく行っています。現在まで、患者さん、ご家族、面会の方、医師、看護師、等多数の参加がありました。今後も、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

絵手紙教室は

- 日 時：毎月第3木曜日 14：00～16：00
- 場 所：東西病棟2階連絡棟面会室
- 講 師：近藤 睦先生
- 参加費：無料 必要物品は、ボランティアで準備しています



あなたも一度、お気軽に参加してみませんか。
病院ボランティア「四つ葉のクローバーの会」



… 編集後記 …

記録的な今年の夏の暑さも少し和らぎ、秋の気配を朝夕に感じる時期になりました。

毎日だいたい決まった時間に起床、就寝し、生活リズムを整えることは心身の健康維持に欠かせません。週休二日制が社会に浸透して随分経ちましたが、週末ないし長期の休暇に生活リズムを崩してしまうことが、心身の変調に繋がることはあまり知られていません。「週末には睡眠不足を補うため寝だめをすることになっている」という人がみえます。しかし他の動物と違い、ヒトは「寝だめ」のできない動物です。かえってリズムを崩してしまうことにもなりかねません。リズムを崩さないように、休日も、だいたいいつもの時間に起床し、その上で運動をしたりリラックスする時間も持って、家族や友人とゆっくり食事をとり、2日目の午後からは心身ともに翌週への準備をするなど、メリハリをつけて生活リズムを維持すること。いわゆるブルーマンデーを防ぐひとつの方法です。(K.K)